

天理市地域公共交通活性化協議会（ネットワーク全体の評価）

1. 協議会が目指す地域公共交通の将来像

公共交通の将来像

（天理市地域公共交通網形成計画および）天理市地域公共交通計画の概要は以下のとおりである。

事業進捗や実施結果などについては、毎年、いわゆる「PDCA サイクル」の考え方に基づく評価を実施することで、社会情勢等、外生的な要因の変化などにも対応し、必要があれば事業内容の見直し・改善を行い、目標の達成を目指す。

○計画の対象区域

天理市全域とする。

○計画の対象期間

（天理市地域公共交通網形成計画：2019年4月～2024年3月（5年間））

天理市地域公共交通計画：2024年4月～2029年3月（5年間）

○計画の基本理念

「支え合うまち天理」を実現する、広域的基幹交通と地域内交通とが連携したニーズに対応した地域公共交通ネットワークの形成

○計画の基本方針

- （1）市民の暮らしを支える、鉄道駅を中心とした公共交通ネットワークの形成
- （2）交通不便地域や高齢者等の移動手段の確保
- （3）観光客にとって利用しやすい公共交通の充実
- （4）幅広い連携による移動手段の維持・確保と利用促進施策の展開

○計画の目標

- ・公共交通の利便性に対する不満度合いの軽減
- ・地域内公共交通の利用者数の維持
- ・地域内公共交通の収支率の改善
- ・公共交通に対する市の負担額の抑制
- ・高齢者の運転免許証返納の促進
- ・来訪者の公共交通利用の促進
- ・関係主体による積極的な利用促進活動の推進

公共交通ネットワークのイメージ図

※別添1（地図）参照

2. 目標設定及びその達成状況の評価に関する事項

- ・各交通モードに対する満足度
- ・地域内公共交通の利用者数
- ・地域内公共交通の収支率
- ・路線バス及び地域内公共交通に対する市の負担額
- ・運転免許証返納者数
- ・主要観光地における公共交通を利用した来訪者の割合
- ・市民を対象とした利用促進活動の実施回数

3. 目標達成に向けた公共交通に関する具体的取組み内容

(1) 取組経緯

○協議会の開催状況

令和6年1月22日

- ・「チョイソコてんり」の導入について
- ・「天理市地域公共交通計画」について
- ・令和5年度天理市地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価（案）について

令和6年2月9日（書面開催）

- ・なら歴史芸術文化村におけるバス運賃改定と交通アクセスについて（継続）

令和6年3月22日（書面開催）

- ・令和6年度天理市地域公共交通活性化協議会予算（案）について

令和6年4月26日（書面開催）

- ・AI デマンド交通「チョイソコてんり」の停留所新設について

令和6年6月28日

- ・「チョイソコてんり」運行改善について
- ・令和5年度天理市地域公共交通活性化協議会決算及び監査について
- ・令和7年度地域公共交通計画別紙（案）について
- ・天理市地域公共交通活性化協議会規約の改正等について
- ・路線バス天理桜井線の利用者調査について

(2) 目標を達成するために行う事業・実施主体・事業概要等

補助対象事業

地域公共交通確保維持改善事業				
事業	実施主体	着手・実施期間	種別	事業概要
コミュニティバス運行事業	奈良交通(株)	R5/10～ R6/3	フ	天理駅出発の西部線2系統及び東部線の合計3系統の運行を実施
デマンドタクシー運行事業	奈良近鉄タクシー(株)	R5/10～ R6/3	フ	天理駅を起点として中心エリアと高原・東・西・南・北エリアを往復するデマンド型乗合タクシー5系統を運行
チョイソコてんり運行事業	奈良近鉄タクシー(株)	R6/4～ R6/9	フ	自宅近くの住宅地停留所201か所から天理駅等の目的地停留所15か所へのアクセスについて、AIを活用し最適な経路と乗り合わせを算出して運行
チョイソコてんり運行事業	(有)天理交通	R6/4～ R6/9	フ	自宅近くの住宅地停留所201か所から天理駅等の目的地停留所15か所へのアクセスについて、AIを活用し最適な経路と乗り合わせを算出して運行

【種別】 幹：地域間幹線系統、フ：地域内フィーダー系統、策：計画策定事業、利策：利便増進計画策定事業、利推：利便増進計画推進事業、継策：運送継続計画策定事業、継推：運送継続計画推進事業

その他補助事業			
事業	実施主体	着手・実施期間	事業概要
令和5年度奈良県公共交通基本計画推進事業	天理市地域公共交通活性化協議会	R5/12	天理市内に乗降地点を120箇所（住宅地乗降場所109地点、目的地乗降場所11地点）設定し、AIを活用した乗り合い送迎サービス「チョイソコてんり」の実証実験をおこなった。
天理市タクシー事業者エネルギー価格高騰対策追加支援金交付事業	天理市	R6/3	新型コロナウイルス感染症及び燃料価格高騰による影響を受けながらも、市民生活や経済活動を支える重要な社会インフラとして運行を継続しているタクシー事業者の事業継続を支援するため、当該事業者に対し、予算の範囲内において

			て天理市タクシー事業者エネルギー価格高騰対策追加支援金を交付した。
令和6年度奈良県公共交通基本計画推進事業	天理市地域公共交通活性化協議会	R6/4	奈良交通(株)が運行する路線バス「天理桜井線」は収支率が基準値を下回っており、改善が必要な状態ある。路線バス「天理桜井線」の利用者に対して、アンケート調査をおこない、利用目的等を把握し、課題の抽出及び今後の方向性について検討する

非補助事業

事業	実施主体	着手・実施期間	事業概要
路線バス補助（天理桜井線）	奈良交通(株)	R5/10～ R6/9	バス路線（幹線）の継続運行のための補助
路線バス補助（天理都祁線）	奈良交通(株)	R5/10～ R6/9	バス路線（幹線）の継続運行のための補助

(3) 生産性向上の視点から取り組んだ事業

※「(2) 目標を達成するために行う事業・実施主体・事業概要等」のうち、生産性向上を目指して取り組んだ事業について、その内容を記入して下さい。

※上記以外の事業においても、該当する事業・取組等があれば、その内容を記入して下さい。

事業	取組内容	効果目標
特になし	特になし	特になし

4. 具体的取組に対する評価

◆地域公共交通確保維持改善事業を活用し運行を確保した下記の事業は適切な運行が確保された。

■コミュニティバス「いちよう号」

令和6年度ネットワーク計画（R5.10.1～R6.3.31）の目標利用者数12,300人に対し、13,278人の利用があり、目標は達成できた。

■デマンド型乗合タクシー「ぎんなん号」

令和6年度ネットワーク計画（R5.10.1～R6.3.31）の目標利用者数2,080人に対し、2,115人の利用があり、目標は達成できた。

■AIを活用した乗り合い型送迎サービス「チョイソコてんり」

令和6年度ネットワーク計画（R6.4.1～R6.9.30）の目標利用者数15,000人に対し、13,034人の利用があり、目標には及ばなかった。（達成状況87%）

5. 自己評価から得られた課題と対応方針

課 題	課題への対応方針
今後、さらなる高齢化社会を迎えるにあたって、買い物・交通不便者及び非免許保有者等への対応。	より生活に密着した公共交通を目指し、あらゆる年代が快適に生活できるような交通網形成を検討する。
公共交通のさらなる利用促進。	運行開始月である4月の利用者は1,876人であったが、9月の利用者は2,477人と増加傾向にある。住民や利用者に対して、公共交通の利便性を理解してもらえるよう、啓発活動を強化するとともに、「チョイソコてんり」の周知および利用促進を図る。

天理市地域公共交通活性化協議会（これまでの経緯）

1. 昨年まで（直近）の二次評価の活用・対応状況		
昨年まで（直近）の二次評価における事業評価結果	事業評価結果の反映状況（具体的対応内容）	今後の対応方針
<p>【コミュニティバス】 適切に事業を実施し、目標・効果が達成されたことは評価できる。 キャッシュレス決済の導入などを実施しながら、引き続き、利用促進されることを期待する。</p>	<p>民間の広告制作事業者と連携し、「コミュニティバス」の時刻表（「デマンドタクシー」の情報も掲載）を作成し、広報紙折込により世帯に配布することにより、公共交通の利用促進を図った。 また、デマンドタクシーと統合するような形で、AIを活用したデマンド型乗り合い送迎サービス「チョイソコてんり」を導入し、今まで公共交通の乗降地点が無かった地域にも乗降地点を設置し、利用促進を図った。</p>	<p>引き続き市民及び利用者のニーズ調査などを行うことにより、利用者数の増加に努める。</p>
<p>【デマンドタクシー】 適切に事業を実施し、目標・効果が達成されたことは評価できる。 キャッシュレス決済の導入などを実施しながら、引き続き、利用促進されることを期待する。</p>	<p>民間の広告制作事業者と連携し、「コミュニティバス」の時刻表（「デマンドタクシー」の情報も掲載）を作成し、広報紙折込により世帯に配布することにより、公共交通の利用促進を図った。 また、コミュニティバスと統合するような形で、AIを活用したデマンド型乗り合い送迎サービス「チョイソコてんり」を導入し、今まで公共交通の乗降地点が無かった地域にも乗降地点を設置し、利用促進を図った。</p>	<p>引き続き市民及び利用者のニーズ調査などを行うことにより、利用者数の増加に努める。</p>

2. アピールポイント、特に工夫した点など

本市は地形的に平野部と東部山間地域が存在し、鉄道については南北に JR が走り、東西は近畿日本鉄道が通っているが、近畿日本鉄道は天理駅が終着駅であり、山間部へのアクセスは奈良交通線の路線バスがあるのみである。

その状況下で、まず平野部においてコミュニティバスの運行を開始し、その空白地をデマンド型タクシーで埋め、さらに交通不便地域であった山間部においてもコミュニティバスを運行することにより、公共交通空白地帯は市域の4%まで縮小した。

平成30年度に策定した天理市地域公共交通網形成計画に基づき、特に高齢化の進展が顕著な中山間地域における移動手段の維持・確保、利便性の向上、運行の効率化を図るため、運行ルートが重複する路線バスとコミュニティバスを再編し、令和2年9月末で路線バスを休止するとともに天理市コミュニティバス「いちよう号」苜原線の運行ルートを一部変更・延伸し、令和2年10月より、新たに天理市コミュニティバス「いちよう号」東部線として運行した。

デマンドタクシー「ぎんなん号」についても、特に高齢化の進展が著しい東部中山間地域における暮らしに必要な移動手段を確保し、将来にわたって持続可能な運行サービスを維持するため、バス路線の再編とあわせて東エリアを再編し、新たに高原エリアを追加した。さらに全系統で増便を行った。

また、令和5年度には新たな公共交通サービスの導入を検討し、12月に実証実験をおこなった（チョイソコてんり）。実証実験の結果、本格運行を望む割合が利用者の9割を占めた為、「いちよう号」と「ぎんなん号」を統合するような形で令和6年4月より、AIを活用した乗り合い型送迎サービス「チョイソコてんり」を本格導入した。

今後も引き続き、「支え合うマチ天理」を実現する、広域的基幹交通と地域内交通とが連携した利便性の高い公共交通網の形成を目指し、天理市地域公共交通計画に位置付けられた施策を中心に関係機関と連携し取り組みを推進する。